

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21H03762

研究課題名（和文）公共空間再編における多主体協働デザインのための実践理論の構築

研究課題名（英文）Development of a Practical Theory for Multi-actor Collaborative Design in Public Space Restructuring

研究代表者

川崎 雅史（Kawasaki, Masashi）

京都大学・地球環境学堂・教授

研究者番号：20195077

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、既存都市の公共空間再編における合意形成と協働デザインを実現するための方法と技術の構築を目的とする。具体的には、国内外の事例（パリ、ウィーン、ブリュッセル、オークランド、大阪、京都等）の、詳細な調査・分析を行い、道路空間再編の経過と課題ならびに解決策を抽出し、空間再編の成功要因の分析を行った。その結果、デザイン・プロセスのなかの協働機会の形成や合意形成における（1）デザインの参画・協働の実態と条件設定、（2）動態性に対応した協働デザイン・プロセス、（3）合意形成における課題に対する一体的・創造的解決のに関して知見を導出し、それら技術・方法の体系的な整理を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の着眼点は、申請者らが、道路をはじめとする公共空間の再編の実務に関わってきた知見と経験に基づくものであり、また、国内外事例の事例研究の蓄積から見出したものである。近年ますます重要性が高まっている協働デザインについて、豊富な事例分析に基づく実証研究を行う点に独自性、独創性が高く、学術的に重要な論点を含むと同時に、実践手法の構築を目的とする点で社会的意義も大きい。本研究で得られた技術・方法については、今後も公共分野のデザインにかかわる総合的な学術研究の進展が期待されるとともに、実社会への応用が十分に期待できる。

研究成果の概要（英文）：The objective of this research is to establish methods and techniques for achieving consensus building and collaborative design in the restructuring of public spaces in cities. Specifically, detailed surveys and analyses of domestic and overseas cases (Paris, Vienna, Brussels, Auckland, Osaka, Kyoto, etc.) were carried out to extract the process, problems and solution measures of road space restructuring and to analyse the success factors of space restructuring. As a result, the following findings were derived from the study: (1) the actual situation and conditions for design participation and collaboration in the formation of collaborative opportunities and consensus building in the design process, (2) the collaborative design process in response to the dynamics of the process, and (3) integrated and creative solutions to problems in consensus building, and a systematic organisation of these techniques and methods. The findings were systematically organised.

研究分野：都市デザイン

キーワード：公共空間 都市デザイン 道路空間 空間再編 合意形成

1. 研究開始当初の背景

近年、特に2010年代以降、国内外において、車道の歩行者空間化・広場化などの道路空間の再編など、公共施設の機能転換にともなう再整備を、多主体協働で行うプロジェクトが数多く進められている。その背景には、産業構造の転換や交通環境の変化などがあるが、既存の都市環境の改変にあたって、その合意形成や多主体協働において、困難に直面するプロジェクトも少なからずある。たとえば、道路は、交通（便利さ）、安全（事故の少なさ）、にぎわいなど、互いに矛盾する価値を内包している。そのため、道路の空間再編においては、沿道地権者や事業者、一般市民、行政、道路・交通管理者などの間で、何が最適解であるかについて、議論を通じて丁寧に決める必要がある。この合意形成は多くの困難を抱えており、市民向け説明会や協議会形式による合意形成を行おうとしても、うまくいかない場合も多く、どのように合意を導くのか、方法論の構築が求められている。

一方で、歩行者空間のにぎわいなどの道路の活用イメージや空間のビジョン、すぐれたコンセプトが、多くの市民を巻き込む原動力となり、道路空間再編の合意形成の達成に寄与する場合もある。さらには、市民の活動や空間管理への積極的参画を導くこともある。このとき、デザインは、単に意匠上の問題ではなく、多主体協働や合意形成の役割を担う重要な原動力となっている。デザインの検討と決定の過程において、どのような議論が行われ、その過程で関係主体（ステークホルダー）の考えはどのように変化し、また、合意が形成されたのか。このような観点から、計画案と合意形成の過程の詳細を把握し、その要因を分析し、そのメカニズムを理解することは重要な学術的課題であるといえる。しかしながら、都市デザインや公共空間のデザインの実践において、実証的な事例分析は未だ進んでおらず、実践上有用な知見の十分な蓄積には至っていない。

2. 研究の目的

本研究は、上記の背景をふまえ、さまざまな公共空間再編の先進事例について詳細な研究を行い、デザイン・プロセスと参加、協働機会の形成や合意形成との関係に着目して、下記の実証的分析を行い、知見を得ることを目的とした。

- (1) デザインの参画・協働の実態と条件設定の方法の分析
- (2) 動態性に対応した協働デザイン・プロセスの要点の抽出と要因の分析
- (3) 合意形成におけるコンフリクト構造の分析と解決の手順・方法についての分析

これらの事例分析を通じて、協働デザインに求められる技術・方法の諸課題を抽出し、協働デザイン・プロセスのモデル構築の検討を行った。

3. 研究の方法

本研究では、国内外の公共空間の再編・デザインの先進事例を対象に、デザインプロセスと参加・協働機会の形成、合意形成との関わりに着目して、まずは下記の3つの観点から実証的な分析を行った。

- (1) デザインの参画・協働の実態と条件設定の方法の分析
- (2) 動態性に対応した協働デザイン・プロセスの要点の抽出と要因の分析
- (3) 合意形成における課題の抽出と解決の手順・方法についての分析

研究の具体的な対象は、近年の公共空間再編事例のうち、特に規模が大きく、かつ都市デザイン上重要なプロジェクトを選定した。具体的には以下の通りである。

【国外事例】

- ・パリ市、中心市街地の車道から七つの広場・公園への空間再編
- ・ウィーン市、中心市街地の車道から歩行者空間への空間再編（Mariahilfer Strasse）
- ・ブリュッセル市、中心市街地の車道から線状公園と広場への空間再編（Blvd. Anspach）
- ・オークランド市、都市周縁部の車道からシェアードスペースへの再編

【国内事例】

- ・大阪市、中之島中央公会堂前、車道から歩行者専用広場・公園への再編
- ・大阪市、船場地区、道路の活用のためのビジョン策定と社会実験における協働
- ・京都市、三条通、道路の活用のためのビジョン策定と社会実験における協働

研究の方法は行政資料・設計資料の調査、設計者や行政担当者等関係者へのインタビュー調査

である。まずは、計画・デザインの経緯を時系列に把握するとともに、それに関わる関係主体の役割や意識、その背景を明らかにした。資料には、行政資料やNPOの発行する資料、アンケート調査結果、論文、新聞、雑誌等を用い、加えて関係主体へのインタビューを行った。

4. 研究成果

本研究課題における具体的な研究対象および成果は以下の通りである。

(1) パリ市、中心市街地の車道から七つの広場・公園への空間再編、については、2015-2016年からパリで計画協議が進められた"Reinventons nos places" (私たちの広場の再発明) プロジェクトによる7つの広場の再編計画を取り上げ、その計画の特徴と計画協議のあり方を明らかにした。その結果、本広場整備の特徴として、1)車道の削減などによる歩行者空間の拡大、2)移動・横断の円滑化、3)異なる交通手段の共存、4)滞留空間の向上、5)歴史性・シンボル性の向上、が共通の方針として掲げられたことを示した上で、その具体的な内容について明らかにした。また代表例の計画協議内容の分析を通じて、パリ市当局による空間的な課題認識や整備により得られる効果の評価、住民意見の反映の方法とその内容、計画・整備における優先順位づけの具体的な内容を明らかにした。その成果については、「パリにおける交差点改良による広場整備計画とその特徴 -"Reinventons Nos Places(2015-)"における計画協議の分析を通じて-」(諏訪淑也, 山口敬太: 都市計画論文集, 58巻, 2号, pp.250-265, 2023) としてとりまとめた。

(2) ウィーン市、中心市街地の車道から歩行者空間への空間再編 (Mariahilfer Strasse)、については、欧州最大規模の歩車共存道路を実現したマリアヒルファー通りの事例を対象として、計画調整と合意形成の過程の分析を通じて以下の知見を得た。1) 空間の活用を優先する調整管理、検討案の評価において、市民参加・社会実験が大きな役割を果たした。2) 歩車共存の計画・設計においては、アクセス性と安全性の調整が重要な課題であり、利用者による自律的な安全性の確保とその制度運用によって実現した。3) 合意形成においては、調整の段階ごとに適切な関係主体を同定・招集し、主体間の相補的な対話を導くことが有効であった。その成果については、「ウィーン・マリアヒルファー通りにおける歩車共存道路の実現過程と合意形成: 歩行者中心の道路空間への再編」(吉野和泰, 山口敬太, 川崎雅史: 土木学会論文集 D1(景観・デザイン), Vol.79, No.6, 22-00224, pp.1-20, 2023) としてとりまとめた。

(3) ブリュッセル市、中心市街地の車道から線状公園と広場への空間再編 (Blvd. Anspach)、については、ブリュッセル首都圏地域の都市内幹線道路であるアンスパッハ通りの空間再編を取り上げ、その計画調整と合意形成の過程の分析を行った。ここでは市民と専門家集団が中心となり、空間アイデアコンペや道路空間の活用イベントを実施し、空間利用の可能性が検討され、その後の車両通行規制や空間利活用長期社会実験や市民参加による計画策定を通じて、空間の目標像の共有と道路の利用転換が図られた。本研究では、そのプロセスに着目し、市民運動や市民参加の経緯を新聞報道や行政刊行物の資料をもとに明らかにし、アイデアコンペの内容を関連資料を用いて明らかにした。また、行政資料とヒアリング調査により、整備の実現プロセスを整理し、交通や空間利用の合意形成に関する課題と解決方策を明らかにした。その成果については、現在審査付論文としてとりまとめ中である。

(4) オークランド市、中心市街地の再編は、細街路での実験的整備を起点として、複数の通りで面的に歩車共存道路の導入と整備が一体的に進められている。資料調査やインタビュー調査を実施し、計画・デザインの経緯を時系列に把握した結果、中心市街地のマスタープランの策定とデザイン主導のプロジェクト推進体制が、面的な歩行者空間整備と道路の利用転換に大きく寄与していることを明らかにした。その成果については、現在審査付論文としてとりまとめ中である。

(5) 上記の他、欧州の出会いゾーン適用事例を対象に、歩車共存道路の制度と設計手法について、各国のガイドラインの内容の調査、制度の比較検討、事例の現地調査等を通じて考察を深めた。

(6) 国内の事例については、研究代表者・分担者が委員やアドバイザー、設計監理者として参画している事例を取り上げ、事例分析を行った。関係主体とのデザイン調整会議の運用実態、市民参加の方法などを主な分析対象として、そのプロセスの詳細な記述を行い、協働デザインにおける課題や各取り組みの成果についての分析を進めた。

以上の分析・考察に基づいて、デザイン・プロセスのなかの協働機会の形成や合意形成におけ

る、(1) デザインの参画・協働の実態と条件設定、(2) 動態性に対応した協働デザイン・プロセスの要点の抽出と要因、(3) 合意形成における課題と解決の手順・方法、について的事例分析を行い、技術・方法の体系化を行った。

<参考文献>

査読付論文

- ・「パリにおける交差点改良による広場整備計画とその特徴-"Reinventons Nos Places(2015-)"における計画協議の分析を通じて」諏訪淑也, 山口敬太: 都市計画論文集, 58 巻, 2 号, pp.250-265, 2023
- ・「ウィーン・マリアヒルファー通りにおける歩車共存道路の実現過程と合意形成: 歩行者中心の道路空間への再編」吉野和泰, 山口敬太, 川崎雅史: 土木学会論文集 D1(景観・デザイン), Vol.79, No.6, 22-00224, pp.1-20, 2023
- ・"Issues and Strategies for Designing Flood Resilient Public Space to Achieve a Balance between Public Amenity and Stormwater Management Infrastructure" Liu Xiaodan, Keita Yamaguchi, Masashi Kawasaki: Urban and Regional Planning Review, Vol.10, pp.197-223, 2023
- ・「米国ノーマルの Uptown Normal Roundabout 事業にみる実施体制と事業評価 —道路空間の再編による空間デザインと機能—」岩本一将, 大石智弘 土木学会論文集 80 (3), 2024
- ・「ロッテルダムにおける公共空間整備の実施体制と合意形成手法—Waterplein Benthemplein の整備に着目して—」岩本一将, 大石智弘 土木学会論文集 D3 (土木計画学) 77 (5), I_269-I_278, 2022

雑誌

- ・「都市デザインの潮流と今後の展望」山口敬太, 新都市, Vol.77, No.5, pp.3-12, 都市計画協会, 2023.5
- ・「地域資源共同管理のプロセス・デザイン論に関する研究(概要)」山口敬太, Urban study 76, pp.19-31, 2023
- ・「中南米から学ぶ、都市再生と公共空間のデザイン戦略」西村 亮彦 新都市 77 (5), pp.55-61, 2023-05
- ・「地域のなかの場所の価値と計画—環境—こと—解釈の関係を手がかりとした「ことづくり」へ」山口敬太, 都市計画, No.357, pp.18-21, 日本都市計画学会, 2022.7
- ・「地方自治体における公共空間のデザインマネジメント」西村 亮彦 ガバナンス / ぎょうせい 編 (259), pp.29-31, 2022-11
- ・「時評—道路空間活用時代への期待」山口敬太, 高速道路と自動車, Vol.64(7), p.9, 2021.7
- ・「公共デザインの未来: 地域・都市の持続と活性化を実現するために」山口敬太, 土木学会誌, Vol.106(4), pp.37-39, 2021.4

講演集

- ・「欧州の出会いゾーン適用事例にみる歩車共存道路の制度と設計手法」漬瀧佑哉, 吉野和泰, 山口敬太, 川崎雅史, 第 68 回土木計画学研究発表会・講演集 28-10, p.1-12, 2023
- ・「近世初期風俗画にみる京都の都市空間における人の活動の特徴」徳井夢有人, 山口敬太, 谷川陸, 川崎雅史, 都市計画報告集 22(2), 364-367, 2023
- ・「街なみ環境整備事業による長野市善光寺周辺地区の道路美装化」岩本一将, 日本建築学会技術報告集 29 (72), 1041-1046, 2023
- ・「北欧におけるシェアードスペースのプロジェクト実践の展開に関する考察」西村 亮彦 景観・デザイン研究講演集 18, pp.129-137, 2022
- ・「渋谷公園通り周辺における歩行者回遊行動の効果的な促進方策に関する研究」田中颯太, 西村亮彦, 景観・デザイン研究講演集 18, 2022
- ・「舗装デザインに着目した歩車共存型商店街の空間構成と利用形態の関係に関する研究」柱知里, 西村亮彦, 景観・デザイン研究講演集 18, 2022
- ・「ウォーカブルなまちづくりを支える道路空間のデザイン: 国内外の事例から学ぶ, 公共空間としてのストリートデザイン」西村 亮彦 都市計画 = City planning review / 日本都市計画学会 編 70 (5), 62-65, 2021
- ・「可動の設えによる住宅地内道路の滞留行為への効果」原 わかな, 大山 祐加子, 薬袋 奈美子, 寺内 義典, 西村 亮彦 日本建築学会技術報告集 27 (66), 925-930, 2021-06-20
- ・「住宅地内道路への路面装飾による滞留行為促進効果」大山 祐加子, 原 わかな, 薬袋 奈美子, 寺内 義典, 西村 亮彦 日本建築学会技術報告集 27 (66), 919-924, 2021
- ・「オランダにおけるシェアード・スペースの理論と実践の展開に関する考察」西村亮彦, 山口敬

- 太, 吉野和泰, 景観・デザイン研究講演集 No.16, pp.129-134, 2021 年 12 月
- ・「欧州におけるシェアードスペースのデザイン手法 – 出会いゾーンの導入に着目して –」吉野和泰, 山口敬太, 西村亮彦, 川崎雅史, 景観・デザイン研究講演集 No.16, pp.135-139, 2021 年 12 月
 - ・「英国におけるシェアード・スペースの理論と実践の展開に関する考察」西村 亮彦, 山口 敬太, 土木計画学研究・講演集 54 2111 , 2021 年 11 月
 - ・「地域資源協働管理システムの構築に向けて」山口敬太, 土木計画学研究・講演集 Vol.64, No.30-5, pp.1-6, 2021 年 11 月
 - ・「芝生空間の環境が利用者の行動に与える影響に関する研究」西村亮彦, 望月魁人, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) 53 2021 年 6 月
 - ・「生活道路マスタープランの模擬的な作成」薬袋 奈美子, 大山 祐加子, 小口 優子, 原 わかな, 寺内 義典, 西村 亮彦, 橘 たか 都市計画報告集 19 (4), 439-446, 2021
 - ・「オークランド中心市街地におけるシェアードスペースの導入と歩行者空間整備の実現過程」吉野和泰, 山口敬太, 川崎雅史, 土木計画学研究・講演集 No.63, pp.1-12, 2021 年 6 月
 - ・「散歩道に着目した地域の体験価値に関する研究」中村太郎, 田中椋, 山口敬太, 川崎雅史, 日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集 19(0), pp.133-136, 2021

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 吉野和泰, 山口敬太, 西村亮彦, 川崎雅史	4. 巻 16
2. 論文標題 欧州におけるシェアードスペースのデザイン手法 - 出会いゾーンの導入に着目して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 景観・デザイン研究講演集	6. 最初と最後の頁 135-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村亮彦, 山口敬太, 吉野和泰	4. 巻 16
2. 論文標題 オランダにおけるシェアード・スペースの理論と実践の展開に関する考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 景観・デザイン研究講演集	6. 最初と最後の頁 129-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口敬太	4. 巻 64
2. 論文標題 地域資源協働管理システムの構築に向けて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 土木計画学研究・講演集	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊大郎, 山口敬太, 谷川陸	4. 巻 20
2. 論文標題 多様な主体の協働による資源循環型農業の成立とメディアイターの役割	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市計画報告集	6. 最初と最後の頁 265-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野和泰, 山口敬太, 川崎雅史	4. 巻 63
2. 論文標題 オークランド中心市街地におけるシェアードスペースの導入と歩行者空間整備の実現過程	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 土木計画学研究・講演集	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suwa Toshiya, Yamaguchi Keita	4. 巻 58
2. 論文標題 A Study on Square Improvement by Reorganizing Intersections in Paris	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of the City Planning Institute of Japan	6. 最初と最後の頁 250 ~ 265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11361/journalcpj.58.250	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 YOSHINO Kazuyasu, YAMAGUCHI Keita, KAWASAKI Masashi	4. 巻 79
2. 論文標題 ウィーン・マリアヒルファー通りにおける歩車共存道路の実現過程と合意形成：歩行者中心の道路空間への再編	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Japanese Journal of JSCE	6. 最初と最後の頁 n/a ~ n/a
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2208/jscej.22-00224	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Xiaodan Liu, Yamaguchi Keita, Masashi	4. 巻 10
2. 論文標題 Issues and Strategies for Designing Flood Resilient Public Space to Achieve a Balance between Public Amenity and Stormwater Management Infrastructure	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Urban and Regional Planning Review	6. 最初と最後の頁 197 ~ 223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14398/urpr.10.197	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 IWAMOTO Kazumasa、OHISHI Tomohiro	4. 巻 80
2. 論文標題 PROJECT EVALUATION AND IMPLEMENTATION SYSTEM THROUGH THE CASE OF UPTOWN NORMAL ROUNDABOUT IN NORMAL TOWN IN THE UNITED STATES OF AMERICA FUNCTION AND SPATIAL DESIGN BY STREET RECONSTRUCTION	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Japanese Journal of JSCE	6. 最初と最後の頁 n/a ~ n/a
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2208/jscej.22-00011	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 IWAMOTO Kazumasa、OHISHI Tomohiro	4. 巻 77
2. 論文標題 METHOD OF CONSENSUS BUILDING AND IMPLEMENTATION SYSTEM FOR CREATING PUBLIC SPACE IN ROTTERDAM CITY THROUGH THE CASE OF WATERPLEIN BENTHEMPEIN	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. D3 (Infrastructure Planning and Management)	6. 最初と最後の頁 I_269 ~ I_278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2208/jscejipm.77.5_I_269	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口敬太	4. 巻 77-5
2. 論文標題 都市デザインの潮流と今後の展望	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 新都市	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口敬太	4. 巻 76
2. 論文標題 地域資源共同管理のプロセス・デザイン論に関する研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Urban study	6. 最初と最後の頁 19-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村 亮彦	4. 巻 77
2. 論文標題 中南米から学ぶ、都市再生と公共空間のデザイン戦略	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 新都市	6. 最初と最後の頁 55-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口敬太	4. 巻 357
2. 論文標題 地域のなかの場所の価値と計画	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 都市計画,	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村 亮彦	4. 巻 259
2. 論文標題 地方自治体における公共空間のデザインマネジメント	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ガバナンス	6. 最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口敬太	4. 巻 64-7
2. 論文標題 時評 道路空間活用時代への期待	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 高速道路と自動車	6. 最初と最後の頁 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口敬太	4. 巻 106-4
2. 論文標題 公共デザインの未来	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 土木学会誌	6. 最初と最後の頁 37-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 潰瀧佑哉, 吉野和泰, 山口敬太, 川崎雅史	4. 巻 28-10
2. 論文標題 欧州の出会いゾーン適用事例にみる歩車共存道路の制度と設計手法	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 土木計画学研究発表会・講演集	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徳井夢有人, 山口敬太, 谷川陸, 川崎雅史	4. 巻 22-2
2. 論文標題 近世初期風俗画にみる京都の都市空間における人の活動の特徴	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 都市計画報告集	6. 最初と最後の頁 364-367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩本一将	4. 巻 29-72
2. 論文標題 街なみ環境整備事業による長野市善光寺周辺地区の道路美装化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 1041-1046
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村 亮彦	4. 巻 18
2. 論文標題 北欧におけるシェアードスペースのプロジェクト実践の展開に関する考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 景観・デザイン研究講演集	6. 最初と最後の頁 129-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中颯太, 西村亮彦	4. 巻 18
2. 論文標題 渋谷公園通り周辺における歩行者回遊行動の効果的な促進方策に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 景観・デザイン研究講演集	6. 最初と最後の頁 n/a
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柱知里, 西村亮彦	4. 巻 18
2. 論文標題 舗装デザインに着目した歩車共存型商店街の空間構成と利用形態の関係に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 景観・デザイン研究講演集	6. 最初と最後の頁 n/a
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村 亮彦	4. 巻 70-5
2. 論文標題 ウォーカブルなまちづくりを支える道路空間のデザイン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 62-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原 わかな, 大山 祐加子, 葉袋 奈美子, 寺内 義典, 西村 亮彦	4. 巻 27-66
2. 論文標題 可動の設えによる住宅地内道路の滞留行為への効果	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 925-930
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山 祐加子, 原 わかな, 葉袋 奈美子, 寺内 義典, 西村 亮彦	4. 巻 27-66
2. 論文標題 住宅地内道路への路面装飾による滞留行為促進効果	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会技術報告集	6. 最初と最後の頁 919-924
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村 亮彦, 山口 敬太	4. 巻 54
2. 論文標題 英国におけるシェアド・スペースの理論と実践の展開に関する考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 土木計画学研究・講演集	6. 最初と最後の頁 n/a
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村亮彦, 望月魁人	4. 巻 53
2. 論文標題 芝生空間の環境が利用者の行動に与える影響に関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 土木計画学研究・講演集	6. 最初と最後の頁 n/a
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 葉袋 奈美子, 大山 祐加子, 小口 優子, 原 わかな, 寺内 義典, 西村 亮彦, 橘 たか	4. 巻 19-4
2. 論文標題 生活道路マスタープランの模擬的な作成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市計画報告集	6. 最初と最後の頁 439-446
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村太郎, 田中 椋, 山口敬太, 川崎雅史	4. 巻 19
2. 論文標題 散歩道に着目した地域の体験価値に関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集	6. 最初と最後の頁 133-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩本 一将 (Iwamoto Kazumasa) (20850142)	京都工芸繊維大学・デザイン・建築学系・助教 (14303)	
研究分担者	西村 亮彦 (Nishimura Akihiko) (30749601)	国土館大学・理工学部・准教授 (32616)	
研究分担者	王 永成 (Wang Yongcheng) (50894515)	富山大学・学術研究部都市デザイン学系・助教 (13201)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	山口 敬太 (Yamaguchi Keita) (80565531)	京都大学・地球環境学堂・准教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関